

2024 年度

事業報告書

2024 年 4 月 1 日から

2025 年 3 月 31 日まで

公益財団法人 東京カリタスの家

目次

<要旨>	3
【2024年度事業の概要】	4
【法人の概況】	5
<事業活動>	9
事業1 家族福祉相談室	9
事業2 放課後等デイサービスカリタス翼	11
事業3 地域活動支援センターみんなの部屋	15
事業4 ボランティア開発養成室	17
事業5 子どもの家エラン	19
<法人管理部門>	23
事務局	23
賛助会	25

<要旨>

【環境認識】

2023年5月にコロナ感染症が5類に分類されて以降、当法人の活動は慎重かつ段階的に日常に戻しており、2024年度の活動はコロナ以前の活動にほぼ等しい内容となっている。但し、その後も感染症は数少ないとはいえ発生しており、コロナ禍時代の経験を活かし、感染症防止及び発生時の対応策の準備を、法人全体に行き届かせていくことは引き続き重要な課題であると認識している。

公益法人制度が、2025年4月より改正された。当公益法人は、この制度改正による直接的に大きな影響を受けるものではないが、規程・会計及び情報開示の面などで新しい制度に対応して変更を要する箇所が存在していると認識している。できるだけ速やかに適切に対応していく所存である。また、制度改正の趣旨を十分に理解して、今後の経営に生かしたいと考えている。

家族福祉相談室とボランティア開発養成室からなるボランティア活動の分野においては、過去より担い手の中心であった専業主婦層が非常に少なくなり、様々な仕事をもつ人材がボランティアの大半を占めるようになってきている。また、行政や福祉団体がカバーする領域が広くなり、その内容も高度化してきている。それらの環境変化を受けて、今後は、行政や福祉団体との連携を深め、ボランティアならではの活動領域を開拓していくこと、及び新しいボランティア層に応じた活動内容を模索していくことが必要と認識している。

放課後等デイサービス・カリタス翼、地域活動支援センター・みんなの部屋、子どもの家・エランは、主として補助金を財源とし、職員により支えられている事業であるが、利用者と保護者に心を寄せ、それぞれ障害者の状況に適したプログラムを作成・実施していくことが肝要であり、知識・スキル・経験を磨いていくことが求められる。そのためには、人材の確保と育成が重要な課題と認識している。また、行政により、冒頭に述べた感染症対策、業務継続計画、非常災害対策、虐待防止措置など制度化や訓練を求められてきている。これらは、時代の潮流の中において、社会的にも要請されていると認識しているが、それらに対して効率的かつ効果的に対応し、内容を継続して充実させていきたいと考えている。

【2024 年度事業の概要】

1. 「家族福祉相談室」は、人間関係の悩み、心身の不調・転居についての相談、病院や福祉施設への同行、育児サポート、家事援助、話し相手等の支援を行った。フリースペースは、毎月 3 回開催し、季節の行事を 4 回行った。外部研修や勉強会等に積極的に参加すると共に、社会の変化やニーズを再確認し、求められている福祉活動を再検討していくことが今後の課題である。
2. 「ボランティア開発養成室」は、ボランティア養成講座を 5 回、ボランティア交流学習会を1回開催した。こころの成長をはかるための諸活動、賛助会への協力、東京カリタスの家ニュースの発送、東京教区ニュース「カリタスの家だより」への投稿等の広報活動に取り組んだ。登録ボランティアへの活動アンケートも例年通り行った。
3. 「カリタス翼」は、SPELLING の支援方針を基本とし、遊び・遠足・合宿を通しての健康・生活面での学び、個々の特性の適切活用、物の属性、形・色・数・時間等の概念の把握、言語コミュニケーション能力の向上、社会性取得等を目標に、支援を行った。個別面談・保護者会等の開催により保護者に対する支援を行うと共に、オープンカリタスの実施等により地域との連携を図った。

* SPELLING 情報をわかりやすく提示し、自己肯定感を高め、本人目線で穏やかに関わり、協働しながら一人ひとりの特性を理解し、常にアセスメントする。
4. 「みんなの部屋」は、地域活動支援センターとして、カード・手芸品の創作活動と交流会・レクリエーション等のグループ活動を通して、安心・信頼を体験し高い自立性と社会性の獲得及び人間性の成長を目指す支援を行った。精神障害者とその家族からの相談に応じ、助言・指導等を行う相談事業、文京区と連携しながら精神障害の悪化を未然に防止することを目的とした精神障害者地域生活安定化支援事業も併せて行った。
5. 「子どもの家エラン」は、グループ活動・運動・散歩・イベント等による各児童に適した自立支援を行い、懇親会・勉強会の開催によって保護者に対する支援の充実も図った。幼稚園・保育園・こども園との併用枠を設けると共に、区主催の施設間体験研修・区民ギャラリーでの事業内容のパネル展示等を行い、地域との連携を深めた。2024 年度からの BCP 義務化による職員研修の充実を図った。
6. 賛助会は、東京カリタスの家ニュース及びボランティア養成講座で会費納入、寄付の呼びかけを行った。賛助会委員会を 10 回開催し、バザーグループの活動・切手グループの活動のサポートをした。
7. 事務局は、機関運営・総務・人事・労務・広報等の法人全体に関わる業務を遂行する中で、ITを活用する等財務・経理業務の効率化をはかった。

【法人の概況】

1 設立年月日

- 1969年4月 東京カリタスの家 発足
- 1974年9月 財団法人 認可「財団法人東京カリタスの家」設立
- 2012年3月 公益財団法人 認定
- 2012年4月 「公益財団法人東京カリタスの家」移行登記

2 定款に定める目的(定款:第3条)

この法人はキリスト教精神に基づき東京都とその周辺地域の福祉向上をめざしてそこに住む人々の家庭生活機能に対する社会的援助を行い、住民の福祉に貢献することを目的とする。

3 定款に定める事業(定款:第4条)

- (1) 家族福祉及び地域の福祉増進のための支援
- (2) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業
- (3) 精神障害者の生活及び活動の支援
- (4) ボランティアの開発、養成、交流、活動の場の創出と派遣及び利用者の開発
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 主たる事務所の状況

主たる事務所 東京都文京区関口3丁目16番15号
(代表)TEL 03-3943-1726 (事務局直通)TEL 03-6912-1360
FAX 03-3946-9156

5 役員等に関する事項

- <理事> 理事長 菊地 功(非常勤) 2024年6月17日 重任
常務理事 奥野 博章(常勤) 2024年6月17日 重任
理事 廣瀬 篁治(非常勤) 荻野 美佐子(非常勤) 向井 崇 (常勤)
以上3名 2024年6月17日 重任
小池四郎(非常勤) 2024年6月17日 就任
- <監事> 南部 真也(非常勤) 野田 典義(非常勤) 以上2名 2024年6月17日就任
- <評議員> 吉村 皎三(非常勤) 宮永 耕 (非常勤) 浦野 雄二(非常勤)
以上3名 2024年6月17日 重任
小野 次朗(非常勤) 苑田 祐二(非常勤) 以上2名 2024年6月17日就任
- <退任> 理事 小宇佐 敬二(非常勤) 2024年5月20日死去
川鍋 為宇 (非常勤) 2024年6月17日退任
監事 更田 義彦(非常勤) 鈴木 典子(非常勤)
以上2名 2024年6月17日退任
評議員 丹羽 禮子(非常勤) 川口 薫 (非常勤) 神吉尚男(非常勤)
以上3名 2024年6月17日退任

6 職員に関する事項(職員配置 2025年3月31日現在) (単位:名)

	職員	契約職員	パート	計
公益目的事業				
家族福祉相談室	0	0	0	0
ボランティア開発養成室	0	0	0	0
放課後等デイサービスカリタス翼	3	1	9	13
地域活動支援センターみんなの部屋	3	0	1	4
子どもの家エラン	4	1	1	6
法人運営				
事務局	1	0	3	4
合計	11	2	14	27

7 役員会等に関する事項

<評議員選定委員会>

	開催年月日	主な議事事項	結果
第4回	2024/6/10	第1号議案 評議員の選定	可決

<評議員会>

	開催年月日	主な議事事項	結果
第21回 (みなし決議)	2024/6/17	第1号議案 2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日)の計算書類(案)を承認する 第2号議案 理事選任について承認する 第3号議案 監事選任について承認する 第4号議案 役員に対する慰労金支給について承認する 第5号議案 上記提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされる日は、2024年6月17日とすることを承認する	可決

<理事会>

	開催年月日	主な議事事項	結果
第 67 回	2024/6/7	<p>第 1 号議案 2023 年度(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日)事業報告書(案)及び計算書類(案)を承認する</p> <p>第 2 号議案 特定費用準備資金(エラン修繕口)の現況報告、取崩予定・現金口座への変更及び売却時手続きについて</p> <p>第 3 号議案 苦情解決に関する規程の改訂について</p> <p>第 4 号議案 苦情解決のため第三者委員の選任について</p> <p>第 5 号議案 評議員候補者推薦について</p> <p>第 6 号議案 理事候補者推薦について</p> <p>第 7 号議案 監事候補者推薦について</p> <p>第 8 号議案 賛助会委員について</p> <p>第 9 号議案 定時評議員会開催について</p> <p>【報告事項】 特定資産にある三井物産株式の現金化の報告</p>	可決
第 68 回 (みなし決議)	2024/6/24	<p>第 1 号議案 菊地功理事を代表理事とすることを承認する</p> <p>第 2 号議案 理事の役割を理事役割分担表のとおりとすることを承認する</p> <p>第 3 号議案 評議員選定委員 2 名を選任することを承認する</p> <p>第 4 号議案 上記提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされる日は 2024 年 6 月 24 日とすることを承認する</p>	可決
第 69 回 (みなし決議)	2024/10/18	<p>第 1 号議案 個人情報の保護に関する基本方針及び個人情報保護規程を制定することを承認する</p> <p>第 2 号議案 評議員選定委員会運営規程を改訂することを承認する</p> <p>第 3 号議案 経理処理規程の改訂を承認する</p> <p>第 4 号議案 印章管理規程の改訂を承認する</p>	可決

	開催年月日	主な議事事項	結果
		<p>第5号議案 東京都障害福祉サービス等職員居住支援特別手当事業の補助金交付に関して下記3事項を承認する</p> <p>① 放課後等デイサービス(カリタス翼)及び児童発達支援(子どもの家エラン)に居住支援特別手当事業による申請を行い、補助金交付を受けること</p> <p>② 当該補助金は遡及申請が可能であるため、2024年4月1日からの手当支給とすること。</p> <p>③ 上記の事項承認に伴い、法人の賃金規程・契約職員就業規則・パート職員就業規則を改訂すること</p> <p>第6号議案 上記提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされる日は、2024年10月18日とすること</p>	可決
第70回	2025/3/18	<p>第1号議案 2024年度(2024年4月1日から2025年3月31日)事業計画書(案)を承認する</p> <p>第2号議案 2024年度収支予算書(案)及び資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類を承認する</p> <p>第3号議案 個人情報保護規程の改訂について</p> <p>第4号議案 外部委員との役員限定契約の締結について</p> <p>第5号議案 役員賠償責任保険の付保について</p> <p>【報告事項】</p> <p>1. 東京都居住特別手当事業について</p> <p>2. 新公益法人制度の発足について</p>	可決

< 事業活動 >

事業 1 家族福祉相談室

【事業の目的と基本方針】

家族福祉相談室では、人間関係、家族の問題、子育て、病気、生活のことなど様々な問題や苦しみを抱えている方たちと関わりを大切にしながら一緒に解決への道を考え支援することで個人および地域社会の福利向上に努める。

相談者一人ひとりに寄り添い「問題を解決する」という視点ではなく、「問題に苦しんでいるその人に寄り添い、解決への道を共に歩んでいく」ボランティア活動を行う。

1. 相談支援活動

(1) 個別相談、支援活動

(開所日とスタッフ体制)

- ① 開所日数: 292 日
開所日 : 月～土曜日(祝、祭日を除く)
開所時間: 10 時～14 時
- ② スタッフの編成
曜日責任ボランティア 6 名
コーディネーター係 7 名
電話受付ボランティア 18 名
ひまわり責任者 3 名
- ③ 活動状況
相談対応活動件数(面接・訪問・電話・メール)2016 件
- ④ 毎週金曜又は土曜日に新規と継続中のケースについて検討する受理会議 24 回

(主な相談内容)

- 家族関係、職場や近隣等の人間関係の悩み。誰からも理解されない、話せる人がいない、孤独や淋しさ等。
- 身体や心の不調、経済的な問題による生活上の悩みや不安な気持ち。
- 公的機関、福祉施設への同行。転居相談。
- 病院、他施設への送迎サポートや介助、ガイドボランティア、通学介助、食料の運搬。
- 病床訪問、退院後のサポート。
- 療育機関でのきょうだい乳児の見守り、育児サポートなど。
- 買物、食事作り、掃除などの家事援助、話し相手。

(相談件数)

継続中相談件数 182 件

新規相談件数 21 件

(内訳)人間関係	8 件	生活介助	0 件
保健・医療	2 件	情報提供	0 件
法律・経済	0 件	その他	4 件
進路・人生	7 件		

(2)フリースペースひまわり(グループ活動)での支援

① 目的

地域の作業所やデイケアになじめない人、人付き合いの苦手な人の居場所。仲間に出会うことによって関りに慣れながら信頼関係を築いて行く。もう一つの目的である食、栄養に興味をもってもらえるように努める。

② 行事

4月4日(木)	春の遠足:新宿御苑	参加者 23名
7月4日(木)	七夕かざり	参加者 11名
10月24日(木)	秋の遠足:新宿御苑	参加者 21名
12月5日(木)	クリスマスツリー飾り付け	参加者 11名
12月	クリスマス(カリタス)パーティ	中止

③ 定期活動

開催日 第1, 第3, 第4木曜日

延べ参加人数 494人(利用者 200人、ボランティア 294人)

(3)研修

- ④ ボランティア開発養成室主催の外部講師による講座、研修に参加した。
- ⑤ 民間相談機関連絡協議会主催の研修に参加した。

2. 課題に向けての取り組み

- 新規相談申し込み数が減少しているので広報活動の見直しを行う。
- 社会の変化やニーズなどを再確認し、求められている福祉活動を再検討する。
- オンラインを利用してスーパーバイザー(専門家)の勉強会などに積極的に参加する。

【主要計数推移】

	2024 年度	2023 年度
継続中相談件数	182	169
新規相談件数	21	57
相談対応活動件数	203	226

事業 2 放課後等デイサービスカリタス翼

【事業の目的と基本方針】

放課後等デイサービスカリタス翼は、「共に生きる」を理念とし、発達に特徴のある小学生から高校生までを対象に、放課後や長期休暇中に自立を目指した支援と、その子らしく過ごせる居場所を提供している。

自己肯定感や信頼感、安心感を育むことを支援方針とし、子どもを中心としたサービスの実践に努めている。

1. 利用状況

(1)利用状況

年間開所日数(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日) 239 日

年間延べ利用者数(一日定員 10 名) 1,636 名

サービス提供時間 14:30～18:30※学校が長期休み中は 10:00～17:00

職員:常勤 4 名(管理者兼児童発達支援管理責任者・社会福祉士、公認心理師、児童指導員)

非常勤 7 名(公認心理師、児童指導員、指導員)

(2)利用児登録状況 (2025 年 3 月末現在)

年齢	小学生	中学生	高校生	合計
人数	14 名	7 名	11 名	32 名

(女児 10 名 男児 22 名)

(3)月ごとの登録者の推移

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録者数	29	29	29	29	29	29	29	32	32	32	32	32

※登録者数は月末時点

2. 支援内容とその実際

(1) 個別支援計画の作成

- ① アセスメントに基づき、児童発達支援管理責任者が利用者全員の個別支援計画(1:健康・生活

2:運動・感覚 3:認知・行動 4:言語・コミュニケーション 5:人間関係・社会性の5項目)を立案し、日々の記録用紙にその内容を反映させるとともに、スタッフとの定期的なミーティングで評価を行い、実際の指導につなげた。

- ② 保護者面談の中で、利用時間中の児童の状態だけでなく、家庭や所属集団での様子についても共有し、保護者への相談支援を行った。

(2) プログラム内容

支援方針「SPELLINGの原則」

- Structure(構造化) 見通しがあり、理解可能で、安心できる環境を作ります。
- Positive(肯定的) 肯定的な言葉かけをし、無理な要求や課題を設定せず、その子にとって必要な支援を提供します。
- Empathy(共感) その子の楽しみや苦痛に共感し、具体的なサポートを考えます。
- Low arousal(穏やかにかかわる) 威圧せず、低刺激で、穏やかにかかわります。
- Links(協働しながら) チームで協働し、支援の連続性と一貫性を保ちます。
- INdividualize(個別化) 一人ひとりの特性を理解し、その子に合わせます。
- onGoing assessment(常にアセスメントする) 常に客観的な事実から理解し、特性に配慮して、柔軟に支援します。

① 健康・生活

- 子どもたち一人ひとりに個別のスケジュールを準備し、見通しを持てるようにした。また、スケジュールはその子の発達年齢に合わせて個別化した。
- 子どもがさまざまな遊びや体験を通して学びを深められるよう、環境を整えた。さらに、障害の特性に配慮し、空間を分かりやすく構造化することで、安心して生活できるよう支援した。
- 子どもが食事や排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなど、生活に必要な基本的な技能を身につけられるよう支援した。そのために、生活の場面に応じた環境の工夫を行いながら、一人ひとりの状態に合わせて個別に支援した。
- いもほり遠足(10月26日、参加10名)、いちご狩り遠足(2月15日、参加10名)などの遠足を実施し、子どもたちが自然の中での収穫体験や仲間との交流を楽しんだ。
- 秋合宿(9月7日・8日、1泊2日、参加9名)を実施し、集団生活や野外活動を通して子どもたちの自主性や協調性を育む機会を設けた。
- 火災と地震を想定した防災訓練を年2回実施し、子どもたちと職員が安全確保や避難行動について確認した。

② 運動・感覚

- 子どもの感覚の特性(過敏さや鈍さ)を踏まえ、それぞれの感覚の偏りに応じた環境調整などの支援を行った。安心して生活しやすい環境を整え、子どもが自分の感覚を適切に活用できるよう支援した。

③ 認知・行動

- 子ども一人ひとりの認知の特性を理解し、それに応じた支援を行った。自分に入ってくる情報を適切に処理できるようサポートするとともに、それぞれの違いを尊重しながらその子に合ったサポートを、アセスメントを通して探求した。まずは安心感を大切にし、子どもが無理なく少しずつ新しいことを受け入れられるよう、丁寧に支援した。
- 子どもが物の機能や属性、形、色、大小、数、時間などの概念を身につけられるよう支援した。これらの概念が理解できることで、日常生活の中で行動の手掛かりとして活用できるよう、1対1の学習や遊びなどの具体的な経験を通じて丁寧にサポートした。
- 子どもの感覚や認知の偏り、コミュニケーションの難しさから生じる行動を理解し、適切な対応を行った。行動の背景にある理由を大切にし、子どもが安心して過ごせる環境を整えることで、行動障害の予防に努めた。また、一人ひとりに合ったサポートを通じて、より適切な方法で気持ちや意思を表現できるよう支援した。

④ 言語・コミュニケーション

- 子どもの障害特性や興味・関心に応じたコミュニケーションの支援を行った。言葉によるやりとりだけでなく、身振り(サイン言語)、絵カード(PECS)などを活用しながら、自分の欲しい物や気持ちを伝えられるよう支援した。一人ひとりに合った手段を大切にし、安心して意思のやりとりができるよう、基礎的なコミュニケーション能力の向上をサポートした。
- コミュニケーションを通して、事物や現象、自分の行動に対応した言語の概念を身につけられるよう支援した。子どもが言葉の意味や使い方を理解し、体系的に言語を活用できるよう、1対1学習や遊び、生活場面の中で自然に学べる機会を大切にした。

⑤ 人間関係・社会性

- 子どもが一人遊びから並行遊びへと進み、順番交代や役割分担・ルールを守る共同遊びへと発展できるよう支援した。グループ活動や遊びを通じて、社会性を身につけられるよう障害特性に配慮してサポートした。
- 子どもが集団に参加するための手順やルールを理解し、興味や発達段階に応じて遊びやグループ活動に加われるよう支援した。共に過ごす中で相互理解を深め、お互いの存在を認め合いながら、クラスで仲間づくりができるようサポートした。
- 2024年12月19日から25日までを「クリスマス・ウィーク」とし、クリスマスを祝う特別な行事を実施した。期間中は、みんなで協力してクリスマス料理を作ったり、音楽演奏を楽しむなど、季節感あふれる活動を通して、子どもたちやご家族が温かなひとときを過ごすことができた。

(3) 保護者に対する支援

- 年2回の個別面談を通じて、保護者と共に子どもの成長を支える方法を考えた。
- 2024年5月17日(金)に保護者会を開催し、情報共有や保護者同士の交流を促進した。
- 2024年11月23日(土)にカリタス翼開設10周年記念パーティーを開催し、修了生家族、現役生家族、旧職員、ボランティアなど総勢83名が参加した。旧交を温め合い、世代を超えた交流や思い出話に花が咲くなど、和やかで楽しい雰囲気の中、これまでの歩みを振り返る貴重な機会となった。

(4) 地域との連携

- ① 都立特別支援学校、文京区立特別支援学級との支援会議を行った(8名)。
- ② 家族支援加算として、利用児童の学校を訪問し直接支援を行った(1名)。
- ③ 卒業後利用する成人施設との連携を行った(1名)。
- ④ 2025年1月27日から31日にかけて「オープンカリタス」を実施し、保護者や地の支援者、学校関係者の方々に事業所の活動を見学していただいた。日々の支援の様子を公開することで、カリタス翼の取り組みへの理解を深めていただくとともに、地域との連携や支援の輪の広がりにつながる貴重な機会となった。
- ⑤ 地域ボランティア・学生実習の受け入れとして、以下の取り組みを行った。
 - ・クラスボランティア:3名 普段のクラスで子どもたちと一緒に遊んだり、活動のサポートを行った。
 - ・行事ボランティア:延べ22名 遠足や合宿で子どもたちと一緒に過ごした。
 - ・実習生受け入れ:9名(大学生、大学院生)。

3 職員研修について

	研修内容	実施日
内部	虐待防止研修	12/19(木)
	身体拘束適正化研修	2025/1/23(木)
	スタッフ勉強会「療育について」「ことばの指導につて」等	2024/6/20、7/18、 9/19、10/31、2025/2/27、 3/13
	合同研修(翼・エラン) ケース検討	6/1(土)
	合同研修(翼・エラン) 講演会(酒井康年先生)	10/5(土)
	荻野先生 SV	月1回、水曜日
外部	文京障害児支援ネットワーク	隔月、火曜日
	PECS ワークショップ	2024/5/25、26
	TEACCHプログラム研究会東京支部研修	2024/6/15、2025/2/17
	文京区障害者虐待防止研修	2024/11/8
	令和6年度東京都強度行動障害支援者養成研修	2024/9～2025/2

【主要計数推移】

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
1日あたり利用者延べ平均(最大10人)	7.36人	6.38人	6.31人	5.2人	6.85人
1日あたり利用者登録平均(最大10人)	9.4人	8人	8人	6.2人	8.8人

事業 3 地域活動支援センターみんなの部屋

【事業の目的と基本方針】

精神障がいのある方々が創作活動やグループ活動を通して、癒しや励ましを与え合えるような場を作る事を目的としている。利用を続けることで生活のリズムを取り戻し、また、グループとの関わりの中で、安心と信頼を体験し、より高い自立性と社会性の獲得や人間性の成長をめざしている。

1. 地域活動支援センター

(1) 利用状況

年間開所日数 241 日

年間延べ利用者数 2,990 名(施設利用 818 名、相談支援 2,172 名)

来所者登録状況

女性 期首 17 名 新規 2 名 終結 0 名 期末 19 名

男性 期首 1 名 新規 0 名 終結 0 名 期末 1 名

※上記には OB・OG の人数は含まれていない。

(2) 職員・スタッフ

常勤職員 3 名、非常勤職員 1 名が日々対応にあたっている。職種は精神保健福祉相談員が 2 名、看護師が 1 名、事務兼作業指導員が 1 名となっている。

家族福祉相談室を通して当施設の活動に参加しているボランティアは 11 名であり、うち 1 名はボランティアの音楽講師として、5 名は毎週金曜日に作業補助ボランティアとして活動している。

(3) 定期的な作業活動

① グリーティングカード製作

クリスマスカード・イースターカード・季節のお花カード・バースディカード・暑中見舞いカード・慶弔カード・キャラクターカードなどを毎年作成している。バザーの売れ行きは増加傾向となっている。

カード作成に関わったメンバーの意見・感想：

- ・ パーツを自由に作ることができてうれしい。
- ・ デザインをオリジナルで搜索出来ての楽しい。

② 手芸品作成 クリスマスグッズを始め、編み物、刺繍、布小物など色々作っている。

手芸品の種類：フェルト小物、編み物(編みぐるみ、アクリルたわし、ポーチ、髪飾りなど)、

刺繍布巾、リースなどのクリスマスグッズ、レジンアクセサリ、焼かない陶器を使ったブローチ、マグネット、石鹸デコパージュ等を毎年作成している。

昨年度においては、リボンを使ったキーホルダー、リース・ツリー・水引アクセサリ・スワッグなどの立体ものを充実させた。

(4) 販売販路

- 11月に神学院のザビエル祭、12月に聖心初等科の校内ミニバザーにはスタッフ及びボランティアが販売担当として参加することができた。
- 構内の教区スペースにおける無人販売と、今までのお客様からの個人注文、登録ボランティアさんの紹介による依頼品など、今年も皆様の協力を得て想像以上の発注や紹介をいただいた。
- コロナ禍をきっかけに作成を始めたオリジナルカレンダーも5年目に入り、関係者への配布だけでなく、昨年に引き続き、一部を売店で販売した。
- 近隣の施設である「大塚生活あんしん拠点」の展示協力を継続して受け、本年度は地域のイベントへも共同で展示参加を行った。
- 新しく活動先として、成城教会敷地内で開催されるマルシェへの展示参加させていただいた。

(5) 各種グループ活動

- 定期発刊の青空通信の編集委員を利用者から募り、グループ活動の一環とした。
- 金曜日の交流会では当初の目的であった曜日間交流が順調に進んでいる様子が見られた。
- 創作活動の時間内において利用者間の意見交換も活発になり始めている様子が確認されている。

(6) みんなの部屋の行事について

① 年間行事

施設から利用者・OB・OGへのクリスマスプレゼントや、近所のお花見会、静かに参加できるクラシックコンサートなどの行事を行った。

② ミニレクリエーション

2023年から始め好評を得ている施設のオープンで焼き上げた焼き芋を帰宅時に配布するという「焼き芋レク」は継続して行った。寒い帰り道、手を温めたあとには帰宅して食べる事ができるカイロとして活用していただく企画により、冬の楽しみが増えたとの声も多く聞かれた。

③ 文化活動支援／自主活動

- 「コーラスサークル」「音楽サークル(自由に音楽を楽しむ会)」

コーラスサークルについては講師の提案を受けて2022年12月よりハンドベルを利用する形で再開していたが、2024年度からは新たにトーンチャイムを利用した活動も始まり楽

しみの幅が広がった。

- 文化活動として善意銀行より招待のミュージカル観劇を行った。

1. 相談支援事業

精神障害者及びその家族等からの相談に応じ、福祉サービスの利用援助、各種施策に関する助言・指導、相談者の権利擁護に必要な援助、専門機関の紹介、その他相談全般について対応している。

2. 精神障害者地域生活安定化支援事業

精神障害者の治療中断等による病状悪化を未然に防止することを目的として、外来治療や退院後の治療を継続支援・服薬継続のための見守り支援等を行っている。文京区予防対策課、文京区保健サービスセンターと協力しながら、現在6名の利用者に医療的福祉的支援を行っている。

【主要計数推移】

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
来所登録者(期末)	20	18	28	28	28
施設延べ利用者	2990	3360	3350	3879	3189

2. 相談支援事業

【主要計数推移】

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
対応件数	2172	2663	3014	3593	2961

3. 精神障害者地域生活安定化支援事業

【主要計数推移】

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
対応件数	1013	968	1198	989	588

事業 4 ボランティア開発養成室

【事業の目的と基本方針】

ボランティアは困難を抱える人々に寄り添い、状況改善に向けてより良い方向を見出すことができるよう一緒に考えながら、家族福祉相談室、放課後等デイサービスカリタス翼、地域活動支援センターみんなの部屋、子どもの家エラン、賛助会他でボランティア活動を行っている。

ボランティア活動の充実化の取り組みとして各種の研修プログラムを実施し、ボランティア能力向上とボランティア相互の交流を図っている。

1. 「ボランティア活動の充実化」への取り組み

例年は、家族福祉相談室、地域活動支援センターみんなの部屋、放課後等デイサービスカリタス翼、子どもの家エラン、賛助会他でボランティア活動を展開している。

ボランティア登録取り消し希望者には長年の貢献を感謝するカードを送った。またホームページでのお知らせを頻繁に行うことにより、ボランティア意欲の維持を図った。

(登録ボランティア数と活動先)

登録者 179 名(今年度登録更新の意思を問うボランティアアンケート 4/1 現在による)

ボランティアの活動先(複数参加有)	活動実人数(名)
家族福祉相談室(行事プログラムを含む)	41
地域活動支援センターみんなの部屋	11
放課後等デイサービスカリタス翼	0
子どもの家エラン	13
開発養成室(カリタスニュース発送・ボランティアアンケート)	12

2. ボランティアの養成

ボランティア養成講座を開催した。

通年テーマ「生老病死に寄り添う」とし、詳細は下記の通りである。

第 1 回 5 月 11 日(土)13 時～16 時 参加人数 55 名

講師 アンドレア・レンボ(カトリック東京教区補佐司教)

テーマ 「生老病死に寄り添う」

第 2 回 5 月 25 日(土)13 時～16 時 参加人数 34 名

講師 向井 崇(放課後等デイサービス カリタス翼 理事)

テーマ 「発達に課題のある子供達とともに」

第 3 回 6 月 1 日(土)13 時～16 時 参加人数 33 名

講師 竹内 弘道(NPO 法人 D カフェ net 代表理事)

テーマ 「認知症の人々とともに ～町のカフェで」

第 4 回 6 月 15 日(土)13 時～16 時 参加人数 20 名

講師 千野 洋見(NPO 法人 女性ネット Saya-Saya 理事)

テーマ 「DV に苦しむ人とともに」

第 5 回 6 月 29 日(土)13 時～16 時 参加人数 60 名

講師 小堀 鷗一郎(訪問診療医)

テーマ 「最終ステージにある人々とともに」

ボランティア交流学習会は 2 回計画されたが、第 1 回は講師の体調不良により無期限延期となった。既に参加者の募集を始めていたので、1 件ずつ連絡してお詫びした

第 1 回(予定) 11 月 2 日(土) 13 時～16 時

講師 最首 悟(和光大学名誉教授)

テーマ 「聴す・・・これなんと訓みますか?」

第 2 回 1 月 25 日(土) 12 時～15 時 参加人数 31 名

登録ボランティアの懇親とグループ活動の活動報告

3. ボランティア交流会 — 人間的、こころの成長をはかる
- ボランティアの広場 年 9 回 実人員平均 13 名 延参加者 121 名
 - カリタスの家ミサ(追悼ミサ) 年 3 回 実人員平均約 14 名 延参加者 44 名
 - なでしこの会 年 11 回 実人員平均約 5 名 延参加者名 59 名

4. 賛助会への協力

ボランティア養成講座、ボランティア(新年)交流学習会において、賛助会活動の説明と活動への協力要請を行った

5. 広報活動の活性化への取り組み

- カトリック東京教区ニュース 掲載 10 回
- 広報封入発送活動 2 回
- ホームページ 随時更新
- 教会キャラバンはインフルエンザなどの感染を避けるため実行しなかった

事業5 子どもの家エラン

【事業の目的と基本方針】

子どもの家エランは、発達支援を必要とする未就学児とご家族のための通所施設である。「共に育つ」を理念とし、エランに通う児童だけでなく、ご家族や支援者、ボランティア、地域の方々も、共に成長することを目指している。

1 利用状況

(1)利用状況

年間開所日数(2024年4月1日～2025年3月31日) 235日

年間延べ利用者数(一日定員10名) 1685名

サービス提供時間 ①9:30～13:30 ②15:30～16:30

職員:常勤4～6名(管理者兼指導員・児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士・作業療法士・発達臨床心理士)
非常勤1名(児童指導員)

(2)利用児登録状況 (2025年3月末現在)

年齢	3歳児	4歳児	5歳児	合計
人数	3名	7名	7名	17名

(女児1名 男児16名)

(3)月ごとの登録者の推移

※登録者数は月末時点

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録者数	16	17	17	17	17	17	17	17	17	16	17	17

2 支援内容とその実際

(1) 個別支援計画の作成

- ① アセスメントに基づき、児童発達管理責任者が利用者全員の個別支援計画(1:健康・生活 2:運動・感覚 3:認知・行動 4:言語・コミュニケーション 5:人間関係・社会性の5項目)を立案し、日々の記録用紙にその内容を反映させるとともに、スタッフとの定期的なミーティングで評価を行い、実際の指導につなげた。
- ② 保護者面談の中で、利用時間中の児童の状態だけでなく、家庭や所属集団での様子についても共有し、保護者への相談支援を行った。

(2) プログラム内容

通園クラス

- ① 昨年に引き続き、週1回から2回、幼稚園／保育園／こども園との併用利用の枠を設けた。
- ② 一日の流れ(来園、トイレ、身支度、遊び、各自の課題、お弁当、お集まり)の中で、児童の反応を確認しながら基準となるプログラム作りを行い、自立を支援した。
- ③ 活動内容
 - ・ グループ活動(運動・リズム・ゲーム・音楽・制作 など)
 - ・ エラントタイム(自立して課題に取り組み、完遂することで自己効力感や自尊心を育てる)
 - ・ チャレンジタイム(児童とその家庭のニーズに合わせた目標への取り組み)
- ④ 季節に合わせた工作の実施
 - ・ 鯉登り・母の日・父の日・七夕・ハロウィン・クリスマス・年賀状・節分・ひなまつり等
 - ・ 区の展覧会(ふれあい美術展)への作品出展
- ⑤ 感覚遊びの充実
 - ・ 視覚・触覚・聴覚で楽しめる遊び:聴覚遊びについては、月に1度の音楽会と、週に1度の少人数での音楽遊びをプログラムに組み込んだ。担当楽器を割り振って合奏をすることや、複数の楽器を1曲の中で鳴らしわけることができるようになる児童もいた。
 - ・ 運動 作業療法士が各児童の運動発達を観察し、発達や興味に合わせた運動を取り入れた。体幹が不安定で、身体の使い方に不器用さのある児童には、個別の運動プログラムの時間を取ることで、身体を使って様々な運動や動きに積極的に取り組めるようになった。
 - ・ これらの遊びを通じて、順番交代、自分の番まで待つ、他者との協力等の社会性も育んだ。
- ⑥ 園庭・散歩
 - ・ 園庭の畑や花壇で、花や野菜の種・球根植え、水まき、収穫を行った。
 - ・ 近隣の公園4カ所程度をローテーションで散歩の行先に定め、さまざまな遊具に触れる機会を設けた。また週に1度は児童の足で片道最大20分程度の公園に遊びに行くことで、十分な運動量の確保に努めた。昨年に引き続き公園でお弁当を食べる活動も取り入れた。
- ⑦ イベント
 - ・ 9月の夕方に縁日と花火と音楽会からなる夏祭りを開催した。クラス内で予め縁日で実施する遊びの練習をすることで、当日も混乱なく催しを楽しむ児童の姿が見られた。

- 家庭でのお出かけや公共交通機関の利用がよりスムーズになるよう、3月に利用児・保護者・職員でのお別れ遠足(井の頭自然文化園)を実施した。遊園地の動画予習により、乗り物が苦手だった児童が当日乗車できる等、成長を感じられる催しとなった。
- ⑧ 親子登園日
- 保護者が活動の様子を見学、情報を交換して支援に生かすため、月に一度設定している。
 - 児童の誕生月には、お集まりや音楽プログラムの時間にお誕生日会を行った。
- ⑨ 保護者交流の推進
- 懇談会や保護者勉強会を月に1回開催して、保護者同士のつながりを持つ機会を作った。
 - 保護者からの要望を受け、児童の在籍する幼稚園や保育園の見学や、園からの見学の受け入れ等、連携して支援を行った。

通所クラス

- ① プログラムの中で、遊びを通じた児童同士の関わりに重点を置いた。能力に合わせて、遊び、作品作りなどの中で、クラスメイトを意識するような取り組みを行った。一緒に遊ぶ中で相手のしていることに注目する、物を貸し借りする、順番を待つ、やり方を相談して決める等、日常生活に近い文脈でスキルを身につけられるよう設定を工夫した。
- ② 児童の誕生月には、クラス内で誕生日会を行った。誕生日会、秋祭り、クリスマス会と3月の「成長を祝う会」では保護者もクラスに入って児童と一緒に楽しむ機会を設けた。
- ③ 保護者からの要望を受けて児童の在籍する幼稚園や保育園を見学、連携して支援を行った。

(3) 保護者に対する支援

① 保護者勉強会

	内容	実施日
全利用者向け	先輩お母さんの話を聞く会(ホームカミングデイと同時開催)	4/27(土)
	先輩お母さんの話を聞く会(特別支援教室とは) 講師:卒園児の母	5/24(金)
	お父さん勉強会・交流会 講師:新井豊吉先生	6/15(土)
	先輩お母さんの話を聞く会(特別支援学級・学校とは) 講師:卒園児の母	6/28(金)
	保護者勉強会 『自閉症とともに』DVD 視聴	9/27(金)
	福祉の制度や療育手帳について 講師:荻野美佐子先生	10/8(火)
通園クラス向け	保護者懇談会	4/26(金)・7/26(金)・2/21(金)
	春の遠足(親子遠足)	5/17(金)
	保護者勉強会「エランの療育」講師:子どもの家エラン職員	10/18(金)
	クリスマス会・保護者懇談会	12/24(月)
	保護者勉強会「お家でどんな工夫してる? 教え合いつこ」	1/31(金)
	成長を祝う会・保護者懇談会	3/18(火)
	お別れ遠足(親子遠足)	3/28(金)

- ② 通園クラスの通園手段の確保は切実な問題だったが、昨年度に引き続き杉並区児童通所支援巡回バス事業により通園バスの利用が可能となり、保護者の負担軽減に繋がった。

(4) 就学支援

- ① 就学を控えた希望者には、学校選択の助けになるよう、知能検査・発達検査(WISC・新版 K 式発達検査)を実施し、結果を保護者と共有した。
- ② 通常級に進学予定の年長児に向け就学支援プログラムを行った。児童に合わせて、学校の仕組みや朝の支度、授業の受け方等にふれる機会を設けた。学校で各児童に合った支援を受けられるよう、保護者と共に就学支援シートを作成し、就学先の学校と情報共有を行った。
- ③ 在園児の保護者が就学について情報を得られるよう、卒園児の保護者から特別支援学校、特別支援教室について話を聞く機会を設けた。

3 地域との連携

- (1) 杉並区立重症心身障害児施設わかばには、通園バスとの連絡調整に労をとっていただいた。
- (2) 杉並区立こども発達センターの巡回相談を申請し、ケースについてのアドバイスを受けた。区主催の施設間体験研修で、職員が他事業所での実習を行い、他事業所職員の実習も受け入れた。
- (3) 杉並区主催ふれあいフェスタ内のふれあい美術展への児童作品出展と、同期間に杉並区役所の区民ギャラリーで行われた「障害者団体・障害者施設紹介パネル展」における事業内容映像上映とパネル展示により、地域の方々に当事業所を紹介した。
- (4) 利用児が利用する園と必要な連携を行った。午前の併用利用者と午後クラス利用者には連絡帳に園からのコメント欄を作成し、保護者から園への提出によって情報共有した。卒園を控えた児に対しては、杉並区就学支援シート「すばるⅡ」を通じて小学校に支援情報を提供した。
- (5) 地域ボランティア・学生実習の受け入れ
 - ① ボランティア:14名(年度途中で1名増、1名減・2名は活動休止中)
 - ・ 教材作成班:5名 児童がお集りで使用する教材や壁掛けタペストリーの作成
 - ・ 園庭整備班:7名 花壇や畑をはじめ庭全体の手入れ
 - ② 実習生受け入れ:6名
 - 4～3月 心理の大学院生 4名
 - 8～9月 保育の専門学校生 2名

4 職員研修について

	研修内容	参加者	実施日
内部	新入職員研修	新人職員	4/1(月)
	BCP(自然災害)	全員	7/1(月)
	BCP(感染症)	全員	9/24(火)
	衛生管理研修(感染症マニュアル)	全員	6/10(月)
	衛生管理研修(訓練:感染症発生・嘔吐対応)	全員	10/8(火)
	安全計画研修(防犯)	全員	12/3(火)
	指定児童発達支援事業に関わる法令研修	全員	4/2(火)
	アレルギー対応	全員	4/2(火)
	虐待防止研修(家庭内虐待への対応・早期発見・行政連携)	全員	6/4(火)
	虐待防止研修(事業所内虐待の防止)	全員	12/9(月)
	身体拘束適正化研修	全員	12/9(月)

	研修内容	参加者	実施日
	プールでの安全管理	全員	7/2(火)
	防災研修(必要物品の確認とシステムについての確認)	全員	9/9(月)
	防災研修(洪水時避難確保計画)	全員	9/9(月)
	防災訓練(利用者を含めた実務訓練)	全員	月1回
	合同研修(翼・エラン) ケース検討	6名	6/1(土)
	合同研修(翼・エラン) 講演会(酒井康年先生)	5名	10/5(土)
	こども発達センター訪問研修	全員	9/27(金)・11/29(金)
	こどもの発達についての研修(SV 荻野先生より)	全員	5/28(火)・9/10(火)
外部	こども発達センターOJT	2名	6/7(金)・6/21(金)
	杉並区主催研修【実践発表会】(ポスター発表)	2名	12/15(日)
	事業所間体験研修(児童発達支援・放課後等デイ)	2名	10/2(水)・1/15(水)
	虐待防止研修(東京都)	1名	7/16(火)～8/12(月)動画 9/2(月)オンライン
	実務者会議(子ども家庭支援センター)	1名	11/7(木)
	児童発達支援管理責任者更新研修	1名	9/12(木)～9/15(日)動画 9/25(水) 集合研修
	児童発達支援事業所情報交換会	2名	11/5(火)

【主要計数推移】

	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
通園延べ利用人数	1569名	1091名	1408名	1386名	1164名
同一日平均	6.6名	4.6名	6.0名	5.8名	4.9名
通所延べ利用人数	129名	355名	299名	373名	350名
同一日平均	1.3名	2.4名	2.1名	2.6名	2.5名

*通園は基本的に週5日、通所は2024年度:週2回、2023・2022年度:週3日、2021年度:週4日、2020年度:週3日開所している。

<法人管理部門>

事務局

1. 総務・労務

- ・ 評議員選定委員会・評議員委員会・理事会の議案書作成、議事録作成、提案書(同意書・意見書を含む)・会議資料・事業計画書・収支予算書・事業報告書・決算書・半期報告書の作成を行った。管理者会議(一部リモート開催)の議案書・議事録作成を行った。
- ・ 評議員選定委員・評議員・理事・監事の退任・就任の承認を得るための評議員選定委員会・評議

員会・理事会開催手続き(書面決議を含む)及び承認後の登記を行った。

- 昨年度に引き続き、セキュリティ強化を含め IT 環境を整えた。その結果、リモート会議の頻繁な開催が可能になり、効率化を図ることができたことに加え、部門間の相互協力が円滑になされるようになった。
- 事務局内の連携強化を図り、限られた時間を有効に使う合理的な運営を行った。
- 求人に関する業務、各事業所の職員の退職・入職に関する書類作成を含む手続きを行った。
- スーパーバイザーとの委嘱契約締結を行った。
- 賛助会より委託を受けて、会員名簿作成及び礼状発送、ホームページ変更等の事務業務を行った。毎月定例の賛助会委員会で法人現況について報告を行った。
- ボランティア運営部門(家族福祉相談室・開発養成室)のサポート業務を行った。
- 3事業所(カリタス翼・みんなの部屋・子どもの家エラン)の東京都、文京区・杉並区への各種届出及び行政書士との連携を含むサポート業務を行った。
- 入退職に関わる手続き、傷病手当金申請、出産・育児休業に関する手続きを社労士と連携し行った。
- 東京都居住支援特別手当に関する手続きを行政書士・社労士と連携して行った。
- 寄付者・東京カリタスの家ニュース送付先等アプリによる管理が可能になり、事務業務の効率化を図ることができた。

2. 経理・財務

- 各事業所から出された数値を基に、税理士法人との打合せをしながら 2023 年度決算書・9 月月次報告、2025 年度予算書の作成を行った。
- 各事業及び法人全体の経費削減に努めた。1 月月次を参考に各事業所管理者が検討を行った上で、実態に即した 2025 年度予算書を作成した。
- 下記により資金の流れの明確化及び経理業務の簡素化を図った。
 - ・ 使用頻度の少ない銀行口座の解約
 - ・ 現金出納アプリの活用
- 内閣府への寄付金税額控除に係る証明申請の手続き業務を行った。
- 家族福祉相談室、ボランティア開発養成室の交通費精算、稟議書作成、物品購入業務を行った。
- 税理士法人と頻繁に連絡を取り、連携を強化した。

3. 広報

- 事業報告書・収支報告書・法人情報・ボランティア養成講座のお知らせ・開示が定められている各事業所の情報等のホームページへの掲載・更新を行った。
- 東京教区ニュース「カリタスの家だより」・東京カリタスの家ニュースの作成についてのサポート業務を行った。
- 賛助会活動への協力及び東京カリタスの家ニュースの為のラベル作成等、広報に繋がるサポート業務を行った。
- 法人に寄せられる種々の問合せや依頼に丁寧に対応することによって、事務局として広報の役割を果たすよう努めた。

賛助会

1. 会員と会費の状況

- ① 2024年度末(2025/3/31)の会員数: 283名
前年度末比+8名の増加。内訳は、新規18名、帰天6名、退会4名
- ② 当年度の賛助会費収入は113万円で、昨年度より▲36万円の減少となった。

2. 支援基盤の強化

- ① 広報活動としてカリタスニュース(年2回発行)の編集、賛助会コーナーにて活動報告をする
とともに、会費納入及び寄付の呼びかけを行った。
- ② 各事業部門との連携を密にして会員の増強に努めた。
- ③ ボランティア養成講座(5月11日、5月25日、6月1日、6月15日、6月29日)でパンフレットとチラシを配布し、賛助会の説明と入会勧誘を行った。
- ④ ボランティア養成講座(5月11日、5月25日、6月1日、6月15日、6月29日)でパンフレットとチラシを配布し、賛助会の説明と入会勧誘を行った。
- ⑤ クリスマス特別寄付の呼びかけを10月末に郵送されるカリタスニュース11月号に同封した。
その結果82万円のご協力を頂いた。

3. 会員活動

- ① 賛助会委員会を10回開催
- ② 物故会員の追悼を行うカリタスミサに3回参加

4. 親睦行事

6月26日に予定した日帰りバス旅行「前橋教会～竹久夢二記念を訪ねて」は、参加人数が29名と少ない上、前橋市が予想以上に猛暑になり熱中症の危険を考慮し、中止とした。

5. 支援活動

- ① バザーグループの活動を以下のとおりサポート
 - 9月7日(日)宮代祭(聖心女子大学の同窓会主催)に出店
 - 11月23日(土)神学院ザビエル祭に出店
 - 12月1日(日)音羽マルシェ(和敬塾にて開催)に出店
- ② 切手グループの活動のサポート
毎月第1と第3火曜日に、送られてきた古切手・新切手の整理、切手を利用したカードや葉の制作活動をサポート。合計26回実施。

(支援する有志の会)

バザーグループ、チャリティコンサートグループ、切手グループ、サロン・ド・あい

事業報告の附属明細書

令和6年事業年度においては、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。」

以上